

認知症総合支援事業等の評価

目標①	・支援困難となりがちな家族や地域と疎遠な独居高齢者の実態把握強化
取組	・市内の75歳以上の独居高齢者の実態把握を積極的に行い、家族や地域と疎遠な高齢者を早期に支援する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・本庁・ステーション総合相談・訪問件数:延べ 1,112件(うち、窓口対応件数:延べ193件) ・在宅介護支援センター総合相談・訪問件数:延べ1,229件 ・認知症の相談:197件(本庁・ステーション) ・必要に応じて支援機関へのつなぎ、サービスの導入支援を行った。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者の救急搬送142件(75歳以上独居者113件)、うち未把握の高齢者39人 ・定期的に見守り訪問する認定を持たない高齢者も増えているが、75歳以上の独居高齢者の実態把握も積極的に進めていく必要がある。
目標②	・認知症の正しい知識の普及啓発と医療・介護の連携による切れ目のない支援体制(認知症初期集中支援チーム)の強化
取組	・9月アルツハイマー月間における認知症理解促進のための啓発、認知症サポーター養成講座や介護予防出前講座の積極的開催
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・9月アルツハイマー月間 行政放送番組放映:週替わり、1日3回 <ul style="list-style-type: none"> ①「認知症とは？」(兒玉医師):【Youtube再生回数:186回】 ②「認知症の相談や受診について」(青木副委員長):【Youtube再生回数:118回】 ③「認知症の人への対応について」(河本委員長、山根委員、河合委員)【Youtube再生回数:184回】 ④「認知症カフェと認知機能トレーニング紹介」(地域包括支援センター職員)【Youtube再生回数:108回】 ※DVD作成し、希望者(団体)に貸出、視聴者49人、アンケート調査実施→資料1参照 ・高梁市図書館とのコラボ <ul style="list-style-type: none"> ①認知症を知るフェア:認知症の図書コーナー設置→貸出数増加 ②ワークショップ:思い出ノート作り⇒令和4年度は定期開催に ・認知症初期集中支援チーム員研修2名受講(保健師、介護福祉士)→2チーム ・認知症初期集中支援チーム派遣:1件(継続支援中) ・認知症相談:延べ197件 <ul style="list-style-type: none"> うち認知症地域支援推進員による個別支援実人数 有漢(6)、高梁(4)、落合(1)、巨瀬(3)、中井(1)、備中(5) ・市ホームページ掲載の認知症支援の情報を見ての相談が増えてきた。 ・認知症サポーター養成講座:17回、新規受講者333人
評価	・アルツハイマー月間の啓発活動は継続が要、広報の評価方法も検討を要する。図書館とのコラボは、高齢者の図書館利用にもつながると思われる。

目標③	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターを中心にした本人・家族のニーズと支援をつなぐ仕組みの整備(チームオレンジの基盤づくり)
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターステップアップ講座によるオレンジサポーターの育成。チームオレンジとして活動するための基盤づくり
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジコーディネーター研修を2名受講⇒計4名 ・認知症サポーターステップアップ講座(2回コース)の開催 受講者:有漢地区民生委員児童委員11人、認知症カフェ運営スタッフ延べ16人
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェ運営スタッフへのステップアップ講座は終了。今後、カフェ利用者やカフェ運営地域で伴走支援が必要な場合にチームオレンジを設置するための基盤ができた。 ・有漢地域は3月にステップアップ講座を行い、チームオレンジの設置は地域の実情に合わせて検討する必要がある。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・支援困難となりがちな家族や地域と疎遠な独居高齢者の実態把握の継続 ・9月のアルツハイマー月間における認知症啓発拡大 ・認知症サポーターステップアップ講座の開催 ・チームオレンジの設置 ・認知症予防事業実施に向けての検討